

# 欧州 ～消えていなかった政治リスク～

経済調査部 主席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)

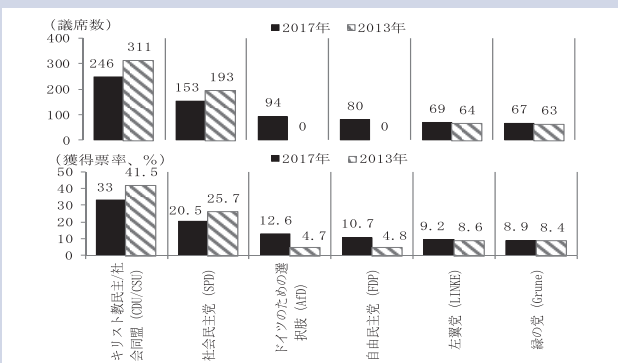
## 揺らぐドイツの政治安定

ポピュリズムの伸張が不安視された欧州では、4、5月のフランス大統領選でマクロン氏が極右候補を破って勝利したことを受け、安心感が広がった。だが、ここにきて欧州の政治リスクの根深さを印象づける2つの出来事が相次いでいる。1つは、メルケル首相の四選続投が確実視されたドイツ議会選で、もう1つはスペインからの独立の是非を問うカタルーニャ州の住民投票だ。

ドイツの連邦議会選は、メルケル首相が率いるキリスト教民主同盟(CDU)と姉妹政党のキリスト教社会同盟(CSU)が勝利したものの、大きく議席を失った。連立パートナーの社会民主党(SPD)も歴史的な敗北を喫し、好景気が続くドイツですら有権者の二大政党離れが進んでいる。代わりに支持を伸ばしたのが、新興右派政党・ドイツのための選択枝(AfD)で、連邦議会での初議席を獲得し、第三党に躍り出た。排外主義政党の影響力拡大に激震が走っている。

政権発足には、CDU・CSU、リベラル政党・自由民主党(FDP)、環境政党・緑の党による三党連立が必要な状況で、各党間の政策相違が大きく、連立協議は長期化・難航が避けられない。ドイツ議会選後に、欧州連合(EU)改革が前進すると期待されていたが、メルケル陣営の思わぬ苦戦で待ったが掛かった。特にフランスが提唱するユーロ圏の共通予算については、FDPが難色を示しており、その実現が危ぶまれている。

資料1 ドイツ連邦議会選挙の政党別獲得議席・票率



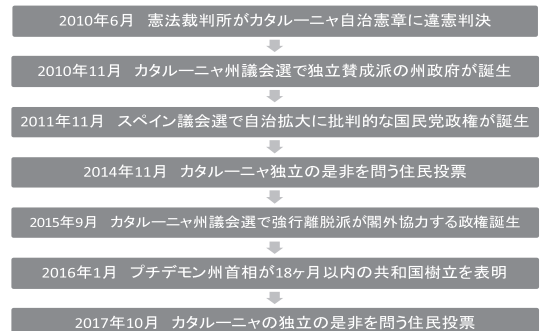
(出所)ドイツ連邦選挙管理官資料より第一生命経済研究所が作成

## 燻る地域ナショナリズム

スペイン北東部沿岸のカタルーニャ州は、過去数年スペインからの独立を求める声が高まっている。約300年前にスペインに併合された同地域は、今も独自の言語や文化を維持している。同州は観光業や製造業が盛んなスペイン有数の裕福な国だが、欧州債務危機の最中に財政運営が行き詰まった。スペインでは州間の格差是正を目的に財政資金の再分配が行なわれており、カタルーニャ州は巨額の財政資金を他州に吸い上げられているとの不満が燻っている。当初は財政自治の拡大を求める声を中心だったが、①2011年のスペイン議会選で地方自治拡大に批判的な国民党政権が誕生、②投票の機会が一向に得られないことへの不満が拡大、③2015年の州議会選後に強硬な離脱派が閣外協力する州政府が誕生—したこともあり、最近ではスペインからの独立要求へと変化してきている。

住民投票の結果は投票者の90%以上が独立に賛成票を投じたが、スペインの憲法では州の住民投票で領土の変更を決定することは出来ない。投票は法的に無効とされ、中央政府との確執が高まっている。州政府は投票結果を受け、一方的な独立に向けた動きを前進させることを示唆している。中央政府はこうした動きに対抗するため、前例のない州政府の自治剥奪に動く可能性もあり(本稿は10月6日に執筆)、州民感情が一段と悪化しかねない。同州の独立が実現する可能性は低い、スペインの政治情勢が不安定化する恐れがある。

資料2 カタルーニャの独立に向けたこれまでの経緯



(出所)各種資料より第一生命経済研究所が作成